

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第5回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

・地域活動支援事業の追加募集について

① 進め方の説明

② ヒアリング

③ 採点

④ 審査・採択すべき事業の決定等

(2) 自主的審議事項（公開）

・町内会長との意見交換会の振り返り

・地域住民との意見交換会について

3 開催日時

令和3年9月9日（木）午後6時30分から午後8時30分まで

4 開催場所

高土地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：青木正紘（会長）、井澤裕一、上野秀平、玄蕃郁子、杉田一夫
高橋清司（副会長）、立入真太郎、田中利夫、塚田春枝、樋口里美
日向こずえ（副会長）、松山公昭（欠席なし）

・事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【山崎主事】

・会議の開会を宣言

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青木会長】

- ・挨拶

私事で申し訳ないのだが、本日は体調不良によりここで退席する。

ここからの議事進行は高橋副会長が代理で行う。

【山崎主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条 1 項の規定では会長が議長を務めることとなっているが、会長が退席するため副会長が議長を務めることを報告

【高橋副会長】

- ・会議録の確認者：井澤委員

次第 2 議題「(1) 協議事項」の「地域活動支援事業の追加募集について」に入る。

事務局より「① 進め方の説明」を求める。

【山崎主事】

- ・進め方について説明

【高橋副会長】

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

以上で「① 進め方の説明」を終了する。

次に「② ヒアリング」に入る。ヒアリング中の進行は事務局に一任する。

【山崎主事】

- ・「土-追 1 ニュースポーツの普及事業」の紹介

【土-追 1 提案者】

- ・事業説明

【山崎主事】

「土-追 1」について質疑を求める。

【高橋副会長】

高和町では昨年、スマイルボウリングやスカットボール等に参加したり、地区内で講師を呼んで講習会を開いた経緯がある。

今回も、そういったかたちでの活動ということだが、これまでに地域活動支援事業

を活用して購入した用具の高士地区への普及がどのような感じなのか教えてほしい。

【土-追1 提案者】

高士区においては、「高士まつり」がある時に、スマイルボウリング等の普及を行っている。また、高士小学校の文化祭時には、スカットボール・スマイルボウリング・スピードラダーゲッターなどを普及している。

また、高士小学校のクラブ活動が年に7回あるのだが、そのうち、高士区体育協会の割り当てが2回ある。その際に、スカットボール・スマイルボウリング・スピードラダーゲッター等を普及している。非常に子どもたちも楽しんでいたため、十分に高士地区内に普及していると思っている。

また、高和町においては、指導員を招く・大会等を開催していただいております、大変に感謝している。各町内でも、同様なことができればよいと思っているため、今後も普及を進めていきたいと思っている。

【松山委員】

提案のあった2つの事業の補助希望額を合計すると、予算額を超過している。

そのため、補助希望額を1万円下げてもらい、提案書にある団体の会計収支差額から不足分を出すことができればよいと思った。これは次の「土-追2」のヒアリングの際にも、同じ内容を伝えるつもりである。

【土-追1 提案者】

自分たちも、「土-追2」の団体と調整をしたわけではないため、このような金額になるとは思っていなかった。

当団体で削除できる項目は削除し、協力していきたいと思っている。

【玄蕃委員】

大変よい事業だと思うのだが、当初申請では提案をしなかった。それは、予算が余っており追加募集があったから提案をしたのか、または以前より考えていたのだが、何らかの理由があり提案することができなかったのか、経緯を教えてください。

次に、障害者にも広く普及できるような事業としては考えているか。

【土-追1 提案者】

1点目の質問についてである。実際には、年度当初よりニュースポーツ用品の購入を検討していた。だが、当初募集時は配分額を超過するのではないかとといった不安があったため提案しなかった。本来であれば、当初募集にて提案すればよかったのだが、

そのような考えが当団体であったため、提案を見送った経緯がある。

2 点目の質問についてである。先ほど、パラリンピックで障害のある選手が優勝したとの話をしたが、高士地区においても普及できることを考えている。

【山崎主事】

以上でヒアリングを終了する。

— 提案者退席 —

- ・「士-追 2 高士地区住民による児童の安全見守り活動事業」の紹介

【士-追 2 提案者】

- ・事業説明

【山崎主事】

「士-追 2」について質疑を求める。

【松山委員】

「士-追 1」の提案者にも話をしたのだが、今回の追加募集で提案のあった 2 事業の補助希望額を合わせると、配分額を超過してしまう。自主財源がかなりあるようなため、2 事業共に補助希望額を 1 万円減額してもらうことができれば、どちらも採択することができる。そのため、自主財源での調整を願いたい。

次に、防犯パトロールベスト 55 着の購入を希望しているのだが、55 着とはどのような数字なのか。

【士-追 2 提案者】

55 着との数字には特別な理由はない。先ほども説明したように、できるだけ速やかに町内へ配布したいと考えている。事前に町内の希望数を確認したうえで申請することも考えたのだが、時間がなく間に合わなかった。そのため 55 着あれば、ある程度は町内の希望どおりに配布できると思い、この数にした。

【上野委員】

先ほど、町内において「ながら見守り」を行うとの説明があったが、今後、各町内会より 1 人ずつ出して、日付ごとに子どもたちを見守るような「順番制」とする等、どのように活用していくのか教えてほしい。

【士-追 2 提案者】

現状では、「各町内から何人」といったことは考えていない。

以前、各種団体等と協議をした際に、とりあえず各町内で自宅が通学路に面してい

る住民に「ながら見守り」お願いをしてはどうかといった話があった。

採択後に具体的に動きたいと思っている。

【松山委員】

これから話を煮詰めていく感じかと思うのだが、子どもたちが少なくなってきたおり、今後は、子どもがいない町内が必ず出てくると思う。そういった際に、備品をどのように管理していくのか。これは、子どもがいる・いないは関係のない話なのだが、今後このような話が出ないとは限らない。

具体的にどういう計画・内容で実施するのか、子どもたちを含めて話し合いをしてもらいたいと思っている。

【土-追2 提案者】

これは、各種団体として、保護者会や学校PTAも一緒に取り組んでいる話である。

先ほども説明したように、「どこの町内に子どもが何人いる」「児童クラブを利用している子どもが何人いる」といった具体的な話はまだしていない。

【山崎主事】

時間となったため、以上でヒアリングを終了する。

— 提案者退席 —

全ての事業のヒアリングが終了したため、進行を副会長に戻す。

【高橋副会長】

ヒアリングが終了したため、「特定事業の決定」に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

・資料2に基づき説明

【高橋副会長】

特定事業について協議を始める。

「土-追1 ニュースポーツの普及事業」について、「子育て世代活動」や「新たなイベント」に適合すると思う委員は挙手願う。

(6人挙手)

適合しないと思う委員は挙手願う。

(3人挙手)

採決の結果、適合すると決する。

適合すると決したため、「子育て世代活動」と「新たなイベント」のどちらに該当す

るのかを協議する。

「子育て世代活動」に該当していると思う委員は挙手願う。

(3人挙手)

「新たなイベント」に該当していると思う委員は挙手願う。

(3人挙手)

【山崎主事】

事務局より補足である。

今ほど、特定事業について採決の上、決定した。これは5点加算には影響しないところであるため、どちらに適合するのかについての確認ということである。

採決の結果、「子育て世代活動」が3人、「新たなイベント」が3人であったため、両方に該当するとの認識でよければ、そのかたちで進めたいと思うが、どうか。

【松山委員】

どちらを選んでも、関係ないということか。

【藤井係長】

どちらを選んでも、結果的には変わらないということである。

【高橋副会長】

特定事業に該当するというので、どちらに該当するのかは確認しなくてもよいか。

【山崎主事】

結果的にはそういうことになる。

【高橋副会長】

次に「土-追2 高土地区住民による児童の安全見守り活動事業」について、「子育て世代活動」や「新たなイベント」に適合すると思う委員は挙手願う。

(1人挙手)

【玄蕃委員】

質問である。採点票の「3 採点内容」の「(1) 高土区の採択方針」の下部に記載されている「これから新たに行う取組の採択ポイント」や「これまで継続的に行われてきた取組の採択ポイント」は、どのように考えればよいのか。これらも、適合性の中の1つと考えてよいのか。

【山崎主事】

「採択方針」という大きな括りの中で、採点票ではA・B・C・Dの4つの項目

に分けている。ここで5点加算の対象となるものは、Aの「集まれ！子育て世代」と、Bの「人を呼べる新たなイベント」の2つのみである。

今これについて、いずれかに該当しているか否かを、適合判定ということで確認しているところである。

【松山委員】

同じような内容になるのだが、採点票で各自、「適合する・しない」にチェックを入れているが、それはまだ発表していない。

そのため、ここで挙手を求められても困るように思うのだが、それはよいのか。

【藤井係長】

委員の中には、採択方針に「該当しない」と考えている委員もいるかもしれない。その場合には、「特定事業にも当たらない」と答えていただければよいかと思う。

【立入委員】

松山委員、これは「5点加算するか・しないか」について協議するのであって、事業自体の話ではない。

【松山委員】

理解した。

【高橋副会長】

協議を続ける。

「士-追2」について、適合するに挙手した委員が1人であった。残りの9人は適合しないということであるため、適合しないと決する。

続いて「③ 採点」に入る。

採点が終了した委員は事務局に採点票を提出願う。提出した委員より、順次休憩に入ってほしい。集計結果がまとまり次第、会議を再開する。

— 休憩 —

【高橋副会長】

会議を再開する。

次第2 議題「(1) 協議事項」の「地域活動支援事業の追加募集について」の「④ 審査・採択すべき事業の決定等」に入る。

最初に事務局より、集計結果について説明を求める。

【山崎主事】

・集計結果を報告

○土-追1 ニュースポーツの普及事業

- ・基本審査判定：12人全員が「適合する」と評価
- ・採択方針：11人が「適合する」、1人が「適合しない」と評価
- ・基本審査基準による採点（平均点）を項目ごとに読み上げ
- ・5つの項目の合計：28.5点
- ・特定事業の該当による5点加点により、最終的な点数：33.5点
- ・その他特記事項：「貸し出しは可能か。普及が目的ならご一考を。」

○土-追2 高土地区住民による児童の安全見守り活動事業

- ・基本審査判定：12人全員が「適合する」と評価
- ・採択方針：6人が「適合する」、6人が「適合しない」と評価
- ・基本審査基準による採点（平均点）を項目ごとに読み上げ
- ・5つの項目の合計：27.1点
- ・その他特記事項：「構成員49人の内訳が知りたい。収支計画が曖昧。事業自体は良い。」

【高橋副会長】

では採択の可否について審議する。

提案事業について、採択すべき、または不採択をすべきとの意見がある委員の発言を求める。

なお、不採択とする場合には、提案者に対して説明する必要があるため、理由も含めて発言願う。

(発言なし)

提案のあった2事業について、採択すべきと考える委員は挙手願う。

(全員挙手)

採決の結果、「採択すべき事業」と決する。

次に、採択する事業の補助額の決定を行う。

現在、高土区の配分額に対して、補助希望額が1万8,000円超過しているため、補助額を減額する必要がある。減額について、意見を求める。

【日向副会長】

自分には小学生の子どもがいるのだが、下校時は学校まで迎えに行く人がほとんど

である。自分の子どもも、1回も歩いて帰ったことがない。それくらい皆、祖父母や父母が迎えに行く人が多く、児童クラブに行く児童もいる。

また、自分の自宅は小学校から遠いため、そこまで見守りをしてもらうこと自体が大変なことである。

さらに自分の町内には、子どもの下校時に「ながら見守り」で外に出られる住民自体が、正直いないと思う。自分の町内だけでも4人しか子どもがおらず、隣の町内には子どもが全くいない。果たして全町内に小学生がいるかどうか、というところである。

自分としては「士-追1」を満額として、「士-追2」から1万8,000円減額としてはどうかと思う。

【松山委員】

ヒアリングの際、2事業の提案者に確認をしたが、自主財源もあるため、両事業より各9,000円を減額としてはどうか。

【立入委員】

「士-追2」より2万円減額としてはどうかと思う。

ヒアリングの際、購入を希望している「ベスト55着」の枚数に対する根拠が、あまりにもないように感じた。自分としては団体の構成員数が「49人」であるため、予備を含めて「55着」なのかと考えていたのだが、そういった説明もなく、とりあえず今は予算を取らなければならないというだけの判断で「55」との数字は、疑問に感じる。

また、先ほどの日向副会長の発言にもあったように、子どもの現状等を考えると、「士-追2」から減額しても問題はないように思っている。

【高橋副会長】

他に意見はあるか。

【玄蕃委員】

附帯意見も含め「士-追2」については、他にも発言があったように、「まずは補助金がほしい」といった印象であり、採択後に具体的に検討するといった説明があった。

先ほどの日向副会長の発言にもあったように、本来であれば子どもは歩いて帰るべきだと思うが、大人が送り迎えをしていることが現状である。そのため、本当に55着必要なのか疑問に思うところがある。もっと予算を削ることができるのかもしれない。

子どもの見守りは大事なことであり、採択すること自体はすでに決定しているため

よいと思う。しかし、内容については精査をして、最終的に残額が出てもよいため、必要のない予算を減額してはどうか。

本当に必要な枚数を作成し、そしてどのように振り分け、どのように有効活用するのかをしっかりと定めてほしいと思う。

【塚田委員】

「ながら見守り」については、見守る人の信用性等もあると思うため、もう少し組織立てた見守り体制を作らなければならないように思う。

自分は小学生の実情が分からないため、何と云ってよいのか分からないのだが、ヒアリングを聞き、しっかりとした体制作りをしたほうがよいのではないかと思った。

【高橋副会長】

意見をまとめる。

2事業で9,000円ずつを折半して減額する案と、「士-追2」は具体的な活動内容が示されていないことから、超過額の全額1万8,000円を減額する2つの案が出ている。

以上の2案で採決を取る。

まず、2事業で9,000円ずつ減額がよいと思う委員は挙手願う。

(1人挙手)

次に「士-追2」が、具体的な事業内容が示されていないことより、超過額の全額である1万8,000円の減額がよいと思う委員は挙手願う。

(9人挙手)

採決の結果、「士-追2」を1万8,000円減額と決する。

減額の理由についても、これまでに出了意見の中にあつたため、内容を正副会長で整理したいと思う。

ここまでの審議結果について、確認のため事務局より読み上げ願う。

【山崎主事】

- ・採択結果について、読み上げ
- ・この後の附帯意見の審議について説明

【高橋副会長】

最後に附帯意見について審議する。

「採択すべき事業」とした事業については、「地域協議会からの附帯意見（採択の条件）」を付けることができる。これまでの協議内容を踏まえ、附帯意見が必要だと思う

事業について、意見を求める。

(発言なし)

では、2事業共に附帯意見はなしとしてよいか。

【松山委員】

採点票に各自が記載した特記事項の取り扱いはどうなるのか。

【山崎主事】

特記事項については、個人の採点の中で記入いただいたものであり、記載されたものをそのまま提案者に伝えるといったことはない。附帯意見の審議において参考にする・共有するといった意味で報告した。

【松山委員】

自分は「土-追2」の高士小学校区青少年健全育成協議会の会員であり、保護司として入っている。この会は、町内会長、各種団体の長、小学校PTAの正副会長、中学校の会長、教頭、そして担当者等で構成されている。

毎年、7月の第1週あたりに総会を行っているのだが、この2年は行われていない。教頭先生に会った際に今年の総会について質問したのだが、「計画はない」と言われた。そのため、今回の提案を見て、自分は聞いていないと思った。

平成21年に設立された団体で、子どもたちの育成のために、かなり尽力されている団体だと思っている。

【日向副会長】

「土-追2」については、1万8,000減額と決した。

減額となったため、購入を希望している防犯パトロールベストが何枚購入できるのか分からないのだが、その所在を明確に地域協議会にも報告してほしいと思っている。それに伴い計画がどのようなになったのかについても、必ず報告してほしいと思う。

また今後、ベストを各町内に配布するとしているが、どこで管理していくのかといったところまで明確にしてほしい。これらを附帯意見として付けてほしいと思っている。

【高橋副会長】

附帯意見について、3点の提案があった。

提案のあった内容を附帯意見として明記してよいか。

賛成の委員は挙手願う。

(多数挙手)

では提案のあった3点を附帯意見として明記したいと思う。

以上で次第2議題「(1) 協議事項」の「地域活動支援事業の追加募集について」の「④ 審査・採択すべき事業の決定等」を終了する。

次に次第2議題「(2) 自主的審議事項」の「町内会長との意見交換会の振り返り」に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

・資料3に基づき、意見交換会の結果を報告

【高橋副会長】

資料は、先日の意見交換会の内容を反映し、調整したものである。

では、資料に関する意見も含め、8月25日の意見交換会を行った感想等を聞き、皆で共有したいと思う。

井澤委員より順に感想を願う。

【井澤委員】

まず、旧高士スポーツ広場をどうにかしようということ自体、難しいことなのだと実感した。ここで話し合い、これからどこに引き継いでいけばいいのか、なかなか先が見えないような気がした会であった。

【上野委員】

自分は発表者であったのだが、当日は各町内会長が意見を出し合ってくれた。

今後、町内会長や地域住民がどのように考えていくかといったところが非常に見えにくかったのだが、これからいろいろと意見交換を行い、よりよいかたちづくりができればよいと感じた。

【玄蕃委員】

大変、難しいことだと思った。先頭に立って「やりたい」と手を挙げてくれるような人がいれば、そこについてまとまっていく団体や個人等がいると思うのだが、今の話し合いの中では、全くそれについて出てこなかった。ただ、気持ち的に町内会長や地域協議会が考えているところは、割と近いように思った。

また期待はできないが、思い切って入ってくれるような企業等があればよいと思う。自分たちが何かしたときに、例えば、ランニングコストや管理等で、後世に負の遺産として残ることは困るといったことも含めて、町内会長は考えていた。

やはり、いろいろな人たちの意見を聞いていくことが大事だと思った。次回の意見

も参考にしたいと思った。

【杉田委員】

今後もしろいろな意見が出てくるかと思うのだが、玄蕃委員の発言にもあったように、具体化していくときに「誰が事業主体となるのか」「財源はどうするのか」「維持管理はどうするのか」といった課題も今後は出てくるかと思った。

【立入委員】

やはり、町内会長から見る目線は、自分たちとは違っているため、参考になった。そういった見方もあるのだと感心していた。

ただ、ゴールがよくわからないということが正直なところであり、地域協議会はあくまでも会議体であるのだが、やはりどこかゴールを見つけて、それに向かっていかなければならないとなった場合、もう少し話し合いが必要かと思った。

やはり、この中だけで話していても仕方がないと思う。もう少し広く、外から人を呼ぶ等して、話を聞きながら進めていかなければならないと思っている。やはり高士地区の人たちだけで話し合っても難しいということが、正直なところである。

【高橋副会長】

当日、田中委員は欠席であったが、これまでの意見や資料を見た感想を願う。

【田中委員】

資料を見ても、本当に何をどうしたらよいのかといった感じであり、まだ全然見えていない。何かを行うにしても、維持管理等が非常に大変だと思う。まずはそういったことをある程度進めてからでなければ、うまくいかないと思う。まずは誰かが先頭になって行動しなければ、ただ意見を出していても、なかなか進まないと思う。

【塚田委員】

これまでに出了意見のとおりだと思う。

本当に難しい問題であり、最初に旧高士スポーツ広場の活用策を話し合う提案が出た時点で、何となく「難しい」と思ったことを引きずっているような状態である。広く意見を求め、よい意見が出るとよいと思っている。

【樋口委員】

簡単な考えとして「何かできないか」と思っていたが、環境面や資金面等でいろいろと壁にぶつかり、本当に難しい問題であったと感じ、簡単に考え過ぎていたと思った。今後、いろいろな意見を聞きながら進めていければよいと思っている。

【松山委員】

資料3の「想定される課題」の中の「活用後の懸念」に、「地区住民の関心が低い」とあるが、こういったことを言われ、それが本音なのだと思います。しかし、それでは話が進まない。ただ、「関心が低い」ということは、間違いないことだと思います。

【高橋副会長】

町内会長の話を聞いて、やはり先が見えないというか心配だと思います。

今後も更に、少子高齢化が進んでいくため、何かを作ったとしても維持管理が大変だと思う。どうにかたちとするのかは分からないが、できるだけ最小限で維持管理できるような体制が必要なのではないかと感じた。

【日向副会長】

自分は前期より地域協議会委員をしていたため、前期の4年間があったわけだが、その4年間の間にも、やはり旧高土スポーツ広場の建物自体がとにかく古く危ないため、「壊してほしい」との委員の声が強かった。

いろいろな人たちを集めて意見交換をする時間を設けたこともあったのだが、今回の町内会長のみを集めた会は、自分にとってすごく刺激的なものであった。

なぜかというと、現状ですら管理することが大変との声が強かったためである。自分の中では、そのあたりが抜けていた。何をするにしても、やはり放置してしまっただけで荒れてしまう。何をするにしても、やはり管理面を1番先に考えなければならないと思った。

今回の会がとてもよかったため、立入委員の発言にもあったように、外部からの意見もすごく必要だと思います。やはり今後は、いろいろな人の意見を聞く耳を持たなければならないと感じた。

【高橋副会長】

委員各自の率直な意見を確認した。

10月1日には地域住民との意見交換を予定している。新たな考えの中で、意見交換をしたいと思っている。

以上で次第2議題「(2) 自主的審議事項」の「町内会長との意見交換会の振り返り」を終了する。

次に次第2議題「(2) 自主的審議事項」の「地域住民との意見交換会について」に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

- ・資料4に基づき、実施計画（案）を説明

【高橋副会長】

では、資料に沿って確認していく。

まず、「1 目的」「2 日程等」「3 検討する項目」については、前回の協議会で1度確認しているため、先に進める。

次に「4 当日の進め方」である。

【松山委員】

その前に、「2 日程等」の参加対象者にある、高士地区体育協会について確認である。

先ほどヒアリングで確認すればよかったのだが、高士地区体育協会は構成員数が1,300人となっており、この構成人数はどこから出てきたのか確認したい。

次に事務局に確認である。

町内会長との意見交換の際もグループに分かれて意見交換を行ったのだが、今回はどのようにグループ分けをするのか。

前回と同じような人たちで分けるのか、または全く別に分けるのか、教えてほしい。

【上野委員】

高士地区体育協会について、関係者として回答する。「1,300人」との数字は、高士地区内の住民数である。各戸より年間700円集金しているため、対象者としている。

【山崎主事】

松山委員の質問は、地域協議会委員のグループ分けをする際のメンバーに関する質問ということでよいか。

【松山委員】

そうである。

【山崎主事】

事務局としては、どちらがよいといったことはない。町内会長との意見交換の際は、基本的には名簿順をベースとし、地域のバランス等を考慮のうえ、グループを分けた。今回はシャッフルしたほうがよい、といった意見があれば対応したい。

【高橋副会長】

町内会長との意見交換会の際は、2つのグループに分かれた。今回のグループ分けについて、何か意見等あるか。

【玄蕃委員】

たくさんの参加があれば、ありがたいと思う。もしかすると、3つのグループになるくらいの参加があるかもしれない。そうなった場合には、基本的に人数は変わってくると思う。申し込み人数によっては、1グループになってしまうかもしれない。

そのため、今この場でグループ分けについては考えることはできないように思う。参加人数に応じて、事務局に任せてとよいかと思っている。結局、今度は相手が違うわけである。広く意見を聞くことができると思っている。

【松山委員】

町内会長であれば、最初からメンバーは分かっている。しかし、次の意見交換会はどのような人が来るのかまだ見えていない。いろいろなタイプの人が来ると思うため、それぞれの対応等もあると思う。自分はグループ分けについてはどのようなかたちでもよく、話題として出してみた。

【高橋副会長】

8月に回覧で回った案内チラシを見ると、事前申し込みの締め切りが「9月24日」となっている。そのため、9月24日以降になれば人員の把握もできるかと思う。

先ほどの玄蕃委員の発言にもあったように、メンバーの割り振りについては事務局に一任したほうがよいかと思っているが、どうか。

【立入委員】

次第を見ると、次回の日程が「10月1日」となっているのだが、「旧高士スポーツ広場の活用を話し合う会」が第6回の地域協議会との考え方でよいか。

【山崎主事】

次に委員より集まっていたくタイミングとしては、10月1日の意見交換会になるのだが、正式には、意見交換会は「地域協議会」ではなく、「委員研修」の扱いとなる。

次回、第6回地域協議会は、11月あたりに入ってくるかと思っている。

【立入委員】

前回の意見交換会に出席しているため、基本的には参加しなければ話も進んでいかないと思うところも正直ある。

この「話し合う会」に対して、どれくらいの熱があるのかと思うところである。あくまで自主的参加であり、どのような人が参加してもよいのだが、やはり来てほしい対象があるかと思う。

例えば、若い年代の人には、正直、来てほしいと思っている。そういったことがなければ、活発な意見が出てこないこともある。

ふと思ったこととして、本日は上越教育大学の学生が傍聴に来ている。縁があれば、学生からも意見交換会に参加してほしいと思った。「産学官民」といった言葉もあるように、やはりいろいろな人の意見を聞いてみたい。意見交換会の対象者は高士区在住の人であるため、条件とは外れてしまうのだが、チャンスかと思っている。

9月24日まで募集をかけてみて、あまり人が集まらなかった場合には、いろいろなところに声掛けを行うことも絶対的に必要なかと思った。

【上野委員】

P T Aには声掛けはしないのか。また、各種団体には役員がいると思うのだが、会長1人だけではなく、役員からも参加してもらえればと思う。その中には若い人もいると思う。そういった考えで案内を出してほしいと思っている。

【高橋副会長】

対象者に対して、事務局にて何か考えていること等あるか。

【松山委員】

募集チラシを回覧しているため、特別に案内をする考え等はないように思う。

【小林センター長】

事務局より補足である。

事務局としては、募集チラシで広く参加を募りたいと思っている。ただ、「全く誰も来なかった」というわけにいかないため、「この人から参加してほしい」と思う人たちには、個別に案内文書を出したいと思っている。若い人たちからもぜひ来てほしいと思っている。自分たちの考えには入っていなかったのだが、今ほど意見のあったP T Aにも来てほしい気持ちもある。

ただ、事務局がどこまでの団体・人に対して事前に案内を出すのかについては、実は際限がない。

そのため事務局ではピックアップした16団体に案内を出すのだが、それに加えて、地域協議会委員がネットワークを駆使してP T Aや大学生等、参加してほしいと思う人に声掛けを行ってほしい。そうすれば、さらに幅の広い意見交換会になると思っている。

今の段階では、一応、16団体プラス地域協議会委員で、前回並みの25人から26人

程度を基本として考えている。だが、それが 30 人や 35 人と増えたとしても、人数に合わせてグループ分けをし、会場についても他の部屋も使う等、工夫しながら進めていきたいと思っている。

【高橋副会長】

他に何かあるか。

次に「5 資料」である。事務局の提案に対して、何か意見等あるか。

【小林センター長】

資料についてである。

手探りの作業の中で、何か問題提起できるものはないかと探したものである。

1 つ目は人口の増減のグラフ、2 つ目は事前に委員からの意見にあった、上越市内で同じように運営しているモデルケースの紹介、3 つ目は市の施設の^{すうせい}趨勢である。

例えばゲートボール場が、市内のどこにあって、現在市でどんな現状と課題を持って運営をしているのかといった内容である。今後何かの役に立つかと思い、作成した。

だがそれでよいか否かは分からない。もし足りない資料等あれば、この機会に追加したいと思っているため意見願う。

【松山委員】

参考資料は前回配布されたものか。また、検討シートは先ほど見た資料 3 のことか。

【小林センター長】

そうである。

【松山委員】

できることであれば、参加者全員に事前に資料を配布してほしい。

【小林センター長】

了解した。参加が決まったところより、速やかに資料を送付したいと思う。

【高橋副会長】

他に何かあるか。

(発言なし)

次に「6 周知」である。事務局の提案に対して、何か意見等あるか。

【松山委員】

「報道機関への情報提供」というのは、当日来てもらおうということではなく、終了後に知らせるということか。どのようなイメージか。

【山崎主事】

情報提供については、終了後ではなく、事前に意見交換会の実施について報道機関に情報を流すものである。地域協議会の際に新聞記者等が傍聴に来て取材していることがあると思うのだが、そういったイメージである。

【松山委員】

他地区の地域協議会でも、同様の情報提供を行っているのか。

【藤井係長】

通常地域協議会はすべて情報提供を行っているため、他地区でも報道機関が傍聴している。意見交換会等についても、支障がなければ情報提供し、新聞記事になることもある。

【玄蕃委員】

地域協議会は、市のバックアップをいろいろ受けて繋がりながら、そして、更に広い地域の人たちと関わりながら、町の方向性を考えていくということなのだと思う。

今回の意見交換会では、広い地域や少し違う目線からの声もほしいと思っている。それぞれの所属団体や仕事場等で周囲にチラシを配布して参加を求めてほしいと思う。

また、有線放送を高土地区内に流してもらってはどうか。

より多くの人たちから、一言でも意見をもらうということが、「関わりを持つ」ということになると思う。「団体の代表が参加した」ということではなく、他の人たちにも参加してほしいと思っている。

【松山委員】

各町内で有線放送のページング放送を流すなど、周知徹底したほうがよいと思う。

案内チラシも1回は見たとしても、2回・3回とは見ないように思う。

【高橋副会長】

いろいろな方法でPRしていければと思う。他に意見等あるか。

(発言なし)

多くの住民より参加いただけるよう、協議会委員からも声掛け願う。

以上で次第2 議題「(2) 自主的審議事項」を終了する。

次に次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認等」に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

- ・ 次回の協議会について説明

— 旧高士スポーツ広場の活用を話し合う会 —

- ・日時：10月1日（金） 午後6時30分から
- ・会場：高士地区公民館 大会議室
- ・内容：地域住民との意見交換

— 第6回地域協議会 —

- ・日程：11月頃
- ・議題：自主的審議（意見交換のまとめ、先進地区視察の検討）

【高橋副会長】

これについて、意見等あるか。

（発言なし）

その他、何かあるか。

（発言なし）

【日向副会長】

- ・閉会の挨拶

【高橋副会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。